

平成23年5月20日（金） 葦原中学校 参加者23名

19:00 開 会

- ・市長あいさつ
- ・自己紹介（副市長、教育長、総合政策部長）
- ・テーマに対する説明（総合政策部長）

参加者：現在のコミュニティセンターでは、テレビ局などを呼ぶにしても中途半端なサイズなので、本庁舎を建て替える場合、第2～4駐車場に仮庁舎を建築し、コミュニティセンターまでを範囲に含めて大きな視点からのプロジェクトとしてほしい。

市 長：仮に本庁舎を新築すると仮定した場合の話をさせていただきますが、コミュニティセンターも大井中央公民館ホールも老朽化しているのはご指摘の通りで、昨年度策定した公共施設適正配置計画では、平成30年を目途に市民文化会館を整備後、機能見直しとさせていただきます。スケジュール的に支所の建て替えが先なのは消防本部庁舎の新築を優先させるためです。指令台の更新を早急に行うため、支所の敷地の活用を予定しています。ご指摘のホールについても一緒に建築というのはいいご意見ですが、2つある現状を踏まえると現時点では難しいと思います。

参加者：本庁舎の耐震化工事は、新築・免震・耐震補強のいずれにしろ財源が必要だが、財源があるのか心配。

市 長：全くその通りだと思います。東日本大震災により国でも財源が大きな問題となっているのはご承知の通り。大震災以前も厳しかったが、今後はさらに厳しい状況になることは容易に想像できるところです。しかし、将来の万が一に備えて防災体制は強化せねばならない。私たちの時代で築き、子や孫の代にも生かせるものでないと、借金だけ残るのでは意味がない。そんな状況のなか、合併したふじみ野市だからこそ利用できる「合併特例債」というものがあり、非常に有利な条件でお金を借りられる。具体的には合併特例債対象事業の95%のうち7割を国が面倒みるというもの。これをうまく使わない手はないが、平成27年までに事業が終了するのが条件。いま有利な借入ができるうちにやるべきことをやりたい。ただし、借金には変わりないので、必要以上に借る必要もないと思うし、財源が重要であるという考え方はおっしゃるとおりだと思います。

参加者：耐震化も大切だが、今後の人口を見定めるのも重要であると思う。なぜなら、人口が減少し、市民があまりいないのに庁舎だけ立派でも意味がないからである。

市長：1995年以降、全国的にも生産年齢人口が減っています。特例債も借金なので20～30年先を考えなくてはならない。ふじみ野市の予想人口は平成29年で12万人。いまより1万3千人増だが、正しいとも限りません。人口予想はしなければならないが、確実な将来は誰にもわからない。私は以前、旧2小のPTA会長をやっていたとき、隣接していた旧2・4小は、2校合わせても1校に満たない生徒数であったため、私自身や子どもたちの母校でもある小学校ではあったが、旧2小を統合するように提言したのを思い出します。まちの将来のためと苦渋の判断だったが、現在、上野台小（旧4小）の教室が足りなくなりつつあるのは、皮肉なものです。本当に将来はわからないものです。

固定した支出の割合を示す経常収支比率も合併時の99.3%から93.9%に下げたが、依然として高い水準。しかし公債比率が低いのも本市の特徴。医療福祉の関連予算は確実に増えていくので、無駄なものは可能な限り削りたいと思っています。

参加者：目前のことだけでなく、駅前の魅力や商店街の活気を取り戻すのも大切。商店街が閑散としているところは人口も増えるはずがない。また、市外から見ても魅力的に映るよう、駅前を整備するなどし、「駅前がきれい」「文化的なまち」と言われるようにがんばってほしい。

市長：上福岡駅西口は整備されてきたが、東口はこれからです。ご指摘の通り、駅を降りて魅力を感じなければ住んでももらえない。まずは東口の玄関口をきれいにして、駅を降りたらまっすぐ中央公園が見えるようにしたいです。今は暫定的に自転車置き場があるものの、今後撤去する予定。商店街を元気にするための方策の一つとして、空き店舗対策も積極的に行っていきます。防災などの守りも重要だが、地域活性化などの攻めも非常に大事だと思っています。

参加者：埼玉県は若い県だが10年もすると超高齢社会になると聞いている。ふじみ野市も40～50歳代が多いのは資料等で把握している。問題だと感じるのは、出産から介護まで対応できる病院がないこと。若い人から高齢者までが安心・安全に暮らしていけることがとても大切だと思う。市民病院を作るのは予算的にも難しいだろうが、気軽に通院でき、子供を産み、育てられるシステムを構築してほしい。すぐには難しいだろうが、せめて今後の見通しだけでも出してもらえば、市民も安心できる。

また、空き店舗対策は商工会と連携し頑張っているのは知っているが、葉っぱを変えても根っこを変えないとうまく地域振興につながらないと思う。若い経営者たちが集まって、新しい商売ができるまちになるようなコミュニティづくりをしてほしい。そのためにも商工労政係を産業振興課か

ら独立・昇格させてはいかがか。

市長：このまちで出産から最期の時を迎えるまで安心・安全に暮らせるのは基本だと思います。さらに地域が主役であるのが理想的。市民病院については、都市部においては財政がひっ迫し、地方においては黒字経営であることが多い。地方には民間病院が少ないので、地域の拠点病院として活躍していることが考えられる。また、県内全域でも小児医療・救急は課題を抱えている。市民病院建設は難しいが、隣接している富士見市や三芳町の医師会とも調整しながら、少しでも良い方向へ持っていきたいと考えています。子育てについては、市民のみなさんの意見を伺いながら子育てしやすい環境づくりを進めていき、また、市内に高齢者福祉施設は充実しているが、市民でも100名前後の方が利用待ちの状態。現在策定中の「第5期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」では、市民が利用しやすい環境をつくるため、デイケアやショートステイなどを兼ね備えた小規模多機能性の充実を目指しています。

なお、確かに商業の活性化は小手先では進まないのが現状です。大半の経営者は、旧上福岡市・大井町が誕生したときに転居された方で、いまは70歳位。後継ぎ不在の方も多く、自分の代で辞められる方も多いので、ご指摘の通り若い経営者を呼び込んだり、育てたりすることが非常に必要です。空き店舗対策だけで活性化する訳ではないので、まちづくりなども含め、総合的に取り組まねばならない重要な課題であると思っています。

参加者：本庁舎建て替えについて、新築・免震・耐震補強の3案の費用が出ているが、震度いくつなら耐えられるかなどがわからない。震度7の場合、市内が壊滅しているにもかかわらず、市役所だけがポツンと残っているのはいかがか。建物だけが残っても意味はなく、機能も残らないと意味ない。逆に言うと、庁舎が壊れてしまっても機能は生かしてほしい。仮に耐震補強工事の場合、市長の部屋は震度10まで耐えられるが、他の部屋は震度5まで耐えられるなど、メリハリをつけた耐震補強工事などをしてほしい。また、本庁舎と支所それぞれにシステムを分散化したり、バックアップを互いに取っておくようにしてはいかがか。

市長：費用面だけで判断できないのは、ご指摘の通りだと思います。説明がわかりづらく申し訳ないのですが、今回は震度6強まで耐えることを想定していますが、大震災を踏まえると、それ以上とすることもあり得ます。今回の被災状況を見ていると街も庁舎も壊滅し、全く行政機能が果たせなくなり、復興への足かせになったケースも多かった。以前のタウンミーティングでも、この場所だけは耐震性を高くするなどの工夫があってもいいとのご意見をいただいています。現時点では、くらし安全課は県とのホッ

トラインもあるので耐震基準を満たす第2庁舎に配置しているが、例えば電算データなどは支所、西口サービスセンターでもバックアップを取り合う体制があってもいいと思います。庁舎は人が助かる耐震レベルで充分と考えるので、機能分散や危険分散も含めて行政機能の強化を図っていきたいと思います。また、仮にふじみ野市が壊滅した場合の受け入れ側としての準備や対策も講じるなど、費用面だけでなく、さまざまな視点から判断しなければならないと思っています。

余談ですが、震災の3日前にJアラート（全国瞬時警報システム）導入や防災無線を最新版に更新するか否かについて打ち合わせていました。初期投資で3~4億もかかるのが引かかったが、地震で電話が全く通じないのを経験した今は、その初期投資も高くはないと感じています。震災直後は、電話などの連絡手段が通じないため、目視により公共施設の状況を確認させたが、仮に道路がだめなら不可能になるので、無線による公共施設への連絡手段の必要性を強く感じたところです。

参加者：資料についての疑問だが、本庁舎の耐震化で、新築なら工事費30億、用地費20億となっているが、仮に新庁舎を建てるなら、どこに建てるのか。また、免震や耐震補強の場合、どちらかを選択するのではなく、いいところ取りしないと意味がないのでは。

また、私は大原地区在住だが、救急車も入れない状況。いますぐはどうにもならないだろうが、せめて、今後どう改善するのか示してもらいたい。

市長：本庁舎を新築するにあたり、まちの中心部に作るなら亀久保小学校あたりになりましようか。しかし、面積が足り、中心であればそれでいいのかという問題もあります。仮に新築した場合、高齢化率も踏まえると本庁舎を利用している多くの高齢者にご不便をかけてしまうので、いまの本庁舎にも窓口を残さなければならないだろうと思います。また、用地も20億では足りないかもしれません。一つひとつ課題をクリアしていくと特例債期限に間に合わない可能性もあるので、何が最善の策か検討していく必要があります。

大原地区に関する問題ですが、大原だけでなく上福岡1・2丁目や北野なども同じ状況であると認識しています。私が消防団をやっていたときも「あと少し道が広ければ消防車が入れるのに」と悔しい思いをしたことが何度もあります。そのため、軽自動車の消防車を導入したこともあったがとても非効率であり続けることができませんでした。本当に辛い状況。大震災などの緊急時だけでなく、平時にも備えなければなりません。あと1分・1秒早ければ助かる命もあるので、予算が無いなりに考えていき、ふじみ野市の課題を出したあとに優先順位を付けていきたいと思います。

参加者：すでに 38 年経過した建物を耐震化しても意味があるのか。閉校する福岡高校を利用していいのでは。技術が進化している今、本庁舎はお金をかけるに足る施設なのか。

また、悪質な訪問販売がひとり暮らし高齢者に対し多いので、安全の強化をお願いしたい。

副市長：コンクリートは建設から 50 年以上もつという事です。埼玉県庁は昭和 28 年建築。新築による 60 階建て庁舎も検討されたが耐震補強工事を完了させています。今日は大きな方向性を決めるためのタウンミーティング。福岡高校の話も出たが、人口変動によりこれから新たに学校などが空くこともあり、それを有効活用する必要もあります。なお、本庁舎耐震診断したときには、コンクリートとしてはまだまだ使えるが、鉄筋が心もとないとの診断を受けています。

市長：悪質な訪問販売についてだが、今日も防犯推進会議を開催していたところです。警察にも強く要望しており、今年中に青パトカーを民間の方に運転してもらうことも検討しています。警察も力を入れているが、振り込め詐欺なども多発しているので、関係機関と連携し、被害の減少に努めていきたいと思います。

参加者：あくまで私の意見なので、市長のコメントは不要である。結論から言うと、新築に賛成する。なぜなら、今後どれだけの地震が来るかはわからないから。市役所は復興する際の中心であるので、なんとしても残さなければならない。被災地で未だに義援金が手元に渡らないのはそこに問題があるから。中途半端に耐震工事するくらいなら、いま建て替えたほうがいいのでは。その際、市役所はみんなが集まる憩いの場にすることで、市民にとっての満足度を上げてもらいたい。

市長：貴重なご意見ありがとうございます。

市長：(閉会あいさつ)